

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5月30日現在

機関番号：17601

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2012

課題番号：22520748

研究課題名（和文） 中・近世ブルゴーニュ公宮廷の結婚をめぐる総合的研究

研究課題名（英文） Studies on the Burgundian Court through the Aspects of Marriages

研究代表者

中堀 博司 (NAKAHORI HIROSHI)

宮崎大学・教育文化学部・准教授

研究者番号：90423558

研究成果の概要（和文）：中世と近代、ドイツとフランスの時空に跨り、北部低地地方と南部両ブルゴーニュ地方の南北二つの領域ブロックから構成されたブルゴーニュ公国の、結婚を軸とする対外的・対内的政治的コミュニケーションのあり様を、プロソポグラフィの研究手法を用いて検討した。ブルゴーニュ宮廷における複雑な婚姻関係を紐解くことによって、ブルゴーニュ宮廷の北方海域から大西洋、さらには地中海にまで及ぶネットワークを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：During the later Middle Ages, the Burgundian state was formed between the Holy Roman Empire and the realm of France for one century. This state was composed of two main territorial blocs: the Low Countries and the Two Burgundies. The role of the court was, therefore, still more important in this separated territory, and the dukes developed a wide-ranging matrimonial politics and had a relationship with the kings and princes from the northern seas' area via the Atlantic to the Mediterranean area. This research elucidated the network of this court through the aspects of marriages.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
2012年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	2,600,000	780,000	3,380,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・西洋史

キーワード：宮廷、結婚、ブルゴーニュ、フランス

1. 研究開始当初の背景

(1)1980年代以降、在パリ・ドイツ歴史研究所グループの活動を通じて、ブルゴーニュ宮廷のプロソポグラフィ（人間集団分析）が飛躍的に進展した。この過程で、豊富な史料が伝来する同宮廷について、身分制議会や入市式に匹敵する「諸身分の集会」としての結婚（式）にかかわる史料集も編纂された。一方、

わが国では、ホイジンガ著『中世の秋』の邦訳を通じて、1950年代末からブルゴーニュ宮廷の文化史的側面については知られていたが、その後、同宮廷に関する全般的な研究動向すらも十分把握されない状況にあった。

(2)他方、20世紀後半以降、欧米やわが国の学界では、君主儀礼の研究が盛んに進められるなかで、とりわけ王権の葬儀と即位式（聖

別式)については集中的に取り上げられてきたが、それに比して婚儀については歴史学の学術的対象としてほとんど注目されてこなかった。

2. 研究の目的

(1) 中世から近代への移行期に、四代にわたるブルゴーニュ公は、フランス筆頭諸侯でありながらも、ドイツ神聖ローマ帝国とフランス王国に跨って勢力を拡大し、なおかつ、ヨーロッパの有力君侯諸家門と婚姻関係を結んで、現在とは異なる政治地理空間を創り上げていった。1477年におけるこの公国の瓦解後も、その遺産の一部はドイツ・ハプスブルク家へと引き継がれ、その後の近代国際政治の枠組みに多大な影響が及ぼされた。

(2) 四代ブルゴーニュ公は、再婚・再々婚を含めると計8件の結婚を行い、さらにその兄弟姉妹ほか近親者、宮廷関係者を含めると、姻戚関係の網の目はヨーロッパ各地に広がっている。初代公が、妻のフランドル女伯から経済的先進地域たるフランドル伯領ほか低地地方を獲得したのを嚆矢として、その後、第2代公はドイツ・バイエルン公家、第3代公はポルトガル王家、第4代公はイングランド・ヨーク家と次々と婚姻関係を結んでいった。とりわけ第3代公フィリップのポルトガル王女イザベルとの結婚を通じて、ブルゴーニュ公国およびその宮廷の地平は、大西洋方面にまで広がることになる。本研究の目的は、同宮廷における結婚をめぐる展開された政策・儀礼・交流の三点を軸に、中・近世ヨーロッパにおける政治的コミュニケーションを明らかにすることにある。

3. 研究の方法

(1) 本研究は、ブルゴーニュ宮廷を舞台とする結婚を通じた政治的コミュニケーションの研究であり、同宮廷にかかわる婚姻の情報を集積することが出発点である。四代にわたるブルゴーニュ公を始めとして、同公の兄弟姉妹や近親者、さらには宮廷・家政関係者へと対象を広げていった。主要な調査項目は、可能な限りにおいて、新郎・新婦、婚約書、婚儀の場所・日時、両家関係者・仲人・参席者等である。

(2) 婚姻情報としては、これまで蓄積されてきたプロソポグラフィの成果を吸収・活用しつつも、年代記等の叙述史料、領邦行政文書、書簡、都市文書等々の刊行・未刊行史料を探索した。特に、すべての婚姻を取り上げるのは困難なため、特定の結婚を軸として、対外的・対内的諸関係や結婚の諸相を分析し、結婚をめぐる人的ネットワークやコミュニケーションのあり様を検討した。

4. 研究成果

(1) ブルゴーニュ公四代の婚姻情報を、同公国に関する総合的文献、各公の伝記的研究、また、四代公に関する旅程研究等を用いて、整理・分析した。その際、結婚が冠婚葬祭という宮廷における通過儀礼のサイクルのなかに位置づけられることを留意して、あわせて先代公葬儀と新公即位、また、結婚に続く嫡子誕生の各種情報にも注目した。こうして四代ブルゴーニュ宮廷にかかわる儀礼一覧(場所・日時)を作成し、今後のヨーロッパ前近代宮廷史に資する基礎的調査を行った。なお、ブルゴーニュ宮廷については、宮内府ないしは家政に関するまとまった史料が伝来していることもあって、当該期におけるその他の君侯諸家門にもまして、かなり体系的に情報収集できたと思われる。

(2) 初代から第3代までのブルゴーニュ公の宮廷に深く関与した人物についても、付随的に調査した。結婚は相続に強く影響を及ぼすため、公の遺言内容およびその執行に密接にかかわっていることも明らかにした。また、結婚の前提となる婚約およびその後の婚儀(式場設定)まで追跡したが、実情把握が困難なケースも多々あることがわかった。文献資料の収集については、ベルギーおよびフランスに関するものを中心に探索し、その過程でブルゴーニュ公の周辺には同公の尚書(特に現ベルギーのトゥルネ司教が屢々同職を兼任)を筆頭とする複数の司教ないしはのちに司教となる宮廷礼拝堂付き聖職者が常に存在し、婚姻をも含めた同公家の宮廷儀礼において極めて重要な役割を果たしたことを明らかにした。この点については、ブルゴーニュ公の世俗支配領域と教会司教管区との重なり合いや司教のプロソポグラフィなども考慮して、聖俗の絡み合いのなかでさらに同公家における冠婚葬祭の諸問題を解き明かしていく必要がある。なお、今や固有の単一国家をもたないブルゴーニュ公国にあっては、同公が有した各地の居城(居館)や所縁の地を体系的に調査することも課題であると判明した。

(3) 婚姻と新公即位に関して、ブルゴーニュ公および公妃が作成した重要な宣誓文書を手に入れた。この史料収集を通じて、金羊毛騎士団の本拠たるディジョン・ブルゴーニュ公邸附設サント・シャペル(=「聖礼拝堂」)の重要性が明らかとなった。ブルゴーニュ公の宮廷礼拝堂であるサント・シャペルは、ブルゴーニュ公が即位時に行うディジョン入市儀礼の最終局面の場であり、新公のみならず新公妃も原則的にここで宣誓を行った。特に公妃の宣誓文書は、系統的に伝来している

にもかかわらず、これまでほとんど注目されなかったものである。サント・シャペルは、公家の婚姻と金羊毛騎士団の接点にあり、その縁起はカペ家ブルゴーニュ公治世期の十字軍遠征（聖地巡礼）にあったのである。

(4)第3代公フィリップと第4代公シャルルの治世において、北方海域（バルト海、北海、英仏海峡）および大西洋、さらには地中海方面への対外関係の広がりを最も顕著に示したのが、海洋帝国を築き上げつつあったイベリア半島のポルトガル王家との婚姻である。とりわけ、公国最盛期を築いた第3代公フィリップ・ル・ボンの甥アドルフ・ド・クレヴと、同公妃イザベル（ポルトガル王女）の姪ベアトリス・ド・コインブルの結婚は、当該期ブルゴーニュ公家の婚姻政策における象徴的な事例であった。この婚姻を軸に据えて、ブルゴーニュ公家が仲介者となり、一方で下ライン地方（現ドイツ北部）に地盤をもつクレヴェ公家（公フィリップの姉マリの嫁ぎ先）と、他方でポルトガル王家傍系コインブラ公家（公妃イザベルの次兄一族）が織り成した姻戚関係のネットワークを、年代記、結婚協定書、都市文書等の各種史料を活用しつつ明らかにした。

(5)また、独仏間で南北に分断されるブルゴーニュ公国において北部の低地地方の政治的比重が増すなかで、宮廷に附設された金羊毛騎士団が、婚姻政策の補完的役割を果たしたことも同時に明らかにした。同騎士団は公フィリップのイザベルとの結婚の際に創設され、対内的には公国各地の有力騎士（貴族）を糾合する一方で、対外的には婚姻関係を結んだ王侯貴族を騎士団に加入させ、ブルゴーニュ公家の姻戚関係のネットワークを強化した。実際、創設者第3代公フィリップや第4代公シャルルの結婚挙式と騎士団総会開催は半ば連続しており、その他の騎士団員の結婚の場合も騎士団加入と関係した。そして、騎士団の本拠が同公家の根拠地ブルゴーニュ公領の首都ディジョンにあるサント・シャペルなのであり、同教会こそが、十字軍理念に基づく騎士団とブルゴーニュ公家が紡いだ姻戚関係のネットワークの要として、ブルゴーニュ公国の精神的支柱となったのである。

(6)以上のように、ブルゴーニュ宮廷におけるブルゴーニュ公をはじめとした錯綜する婚姻関係を紐解きながら、同宮廷における政治的なコミュニケーションを明らかにしてきたが、その婚姻による結合のあり方については、当時ブルゴーニュ公が、その他のヨーロッパの有力君主にもまして、強い十字軍理念を抱いていたことといかなる関係にある

のか、また、婚約の際の宮廷間での個々の相互の遣り取りや、婚儀の詳細についてもまだ残された問題はある。結婚の背景にある、十字軍を企図した世俗君侯の間での同盟関係のあり様や、オスマン・トルコによるコンスタンティノープルの陥落（1453年）後において十字軍遠征を鼓吹した教会イデオログの役割、また、君侯諸家門間の婚姻を最終的に支持ないしは反発した教皇（庁）との関係など、今後継続して検討することによって、ブルゴーニュ宮廷のヨーロッパ国際舞台における、その位置と役割をより一層解明していく必要があると考えている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計5件）

- ① 中堀博司、「ブルゴーニュ公国における宮廷儀礼のクロノロジー」、『宮崎大学教育文化学部紀要（社会科学）』、査読無、第29号、2013年（脱稿済、9月刊行予定）、掲載頁未定
- ② 中堀博司、「クレヴェとポルトガルブルゴーニュ公家の婚姻政策に関する覚書―」、『宮崎大学教育文化学部紀要（社会科学）』、査読無、第28号、2013年、1-29頁
- ③ 中堀博司、「ヴァロワ家ブルゴーニュ公の公位継承と公妃の宣誓（2）―ディジョン都市特権確認文書―」、『宮崎大学教育文化学部紀要（社会科学）』、査読無、第28号、2013年、31-50頁
- ④ 中堀博司、「ヴァロワ家ブルゴーニュ公の公位継承と公妃の宣誓（1）―ディジョン入市式次第一―」、『宮崎大学教育文化学部紀要（社会科学）』、査読無、第26・27号、2012年、39-50頁、http://ir.lib.miyazaki-u.ac.jp/dspace/bitstream/10458/4183/1/s2627_pp.39-50.pdf
- ⑤ 中堀博司、「製塩所グランド・ソヌリ長官ジャン・シュザの活動―塩鉱山経営とブルゴーニュ国家財政―」、『社会経済史学』、査読有、2011年、第77巻第2号、25-40頁

〔学会発表〕（計4件）

- ① 中堀博司、「クレヴェとポルトガルブルゴーニュ公家の結婚戦略に関するノート―」、第11回ブルゴーニュ公国史研究会、2012年7月8日、於宮崎大学
- ② 中堀博司、「ブルゴーニュ宮廷のモニュメント―ブルゴーニュ公の移動宮廷に関する予備考察―」、第10回ブルゴーニュ公国史研究会、2011年11月20日、

- 於九州大学東京オフィス
- ③ 中堀博司、「ブルゴーニュ公フィリップ・ル・ボンの第一遺言(1426年)―1420年代の婚姻政策を中心に―」、第7回ブルゴーニュ公国史研究会、2010年11月27日、於清泉女子大学
 - ④ 中堀博司、「ブルゴーニュ公国における宮廷と首都―都市ディジョンの位相―」、九州西洋史学会2010年度秋季大会、2010年10月16日、於九州大学

[その他]

ホームページ等

(1)<http://www.miyazaki-u.ac.jp/educul/educul.html/j/professor08/004/F004-024.html>

(2)<https://srhumdb.miyazaki-u.ac.jp/webopen/search?method=view&id=100000091>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中堀 博司 (NAKAHORI HIROSHI)
宮崎大学・教育文化学部・准教授
研究者番号：90423558

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：